

平成 22 年度埼玉大学大学院修了生の皆さんへ

埼玉大学大学院を修了される皆さん、修了おめでとうございます。皆さんは、ご家族の方々とともに、今日という日を心待ちにしてこられたことと存じます。

本来なら、本日大学会館で平成 22 (2010) 年度大学院修了式を挙行するところですが、このたび東北地方を襲った大震災並びに現下の諸事情に鑑み、式典を中止して、各研究科において学位記の授与を執り行うことになりました。皆さんにとって晴れの舞台である修了式を、このような形に変更せざるを得なくなったことは埼玉大学としても残念ではありますが、なにとぞご理解いただくようお願いいたします。

いま、日本は、大震災に加えて原発事故が重なるという、未曾有の地球史的問題に直面しています。地震と津波の犠牲となられた方々には、お悔やみの言葉さえはばかれる思いですし、原発事故については、安全に収束することを願うしかないもどかしさがあります。

今回の大惨事の状況は、科学の限界や人間の力のはかなさを否応なしに感じさせる出来事であります。広島・長崎・ビキニ環礁での被爆を体験し、世界に対して、二度とこのようなことが起こらないことを宣言したこの国、日本で、日本人の手で作った原子力発電所の事故により放射能汚染の恐怖に曝される日が続いているということは、何とも歯がゆく、悲しいことでもあります。

科学と技術の発達は人々の生活を豊かにし、また便利なものにしてきました。しかし同時に、予測しがたいことであったとは言え、科学と技術への過信と便利さに慣れ親しみすぎた社会の在り方が、自然の脅威によってもろくも崩されてしまったことも、また事実なのです。

修了生の皆さんは、修士あるいは博士の学位を取得した気鋭の研究者、技術者として、これから様々な現場に出て活動していかれることでしょう。私は皆さんに、今回遭遇した大惨事が問いかけていることを研究者、技術者としてどう受け止めるかを、真剣に考えていただきたいと思います。そして、皆さんが、自然や社会が問いかける課題に真正面から向き合い、埼玉大学大学院で身につけた専門的な力を存分に発揮し、安全で、安心して暮らせる社会の形成に貢献されることを心から期待いたします。

平成 23 年 3 月 23 日

埼玉大学長 上井 喜彦